



特集号

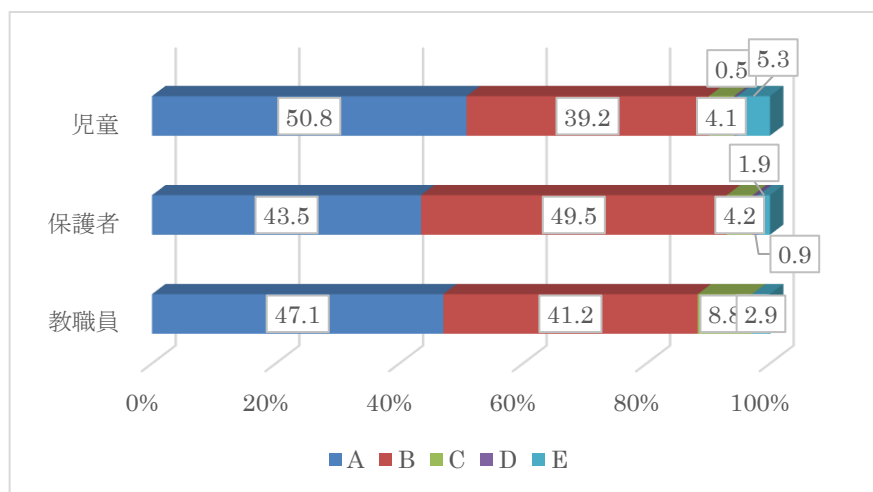
「第三小学校の教育についてのアンケート」のまとめ

保護者の皆様へのアンケート(令和6年12月実施)につきまして、多くの回答をいただき、ありがとうございました。結果を以下のようにまとめましたので、お知らせいたします。次年度の教育活動に役立てていきたいと思ひます。今後とも本校の教育活動にご理解ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

A: 当てはまる B: どちらかというとき当てはまる C: どちらかというとき当てはまらない D: 当てはまらない E: 分からない

1 豊かな心の育成

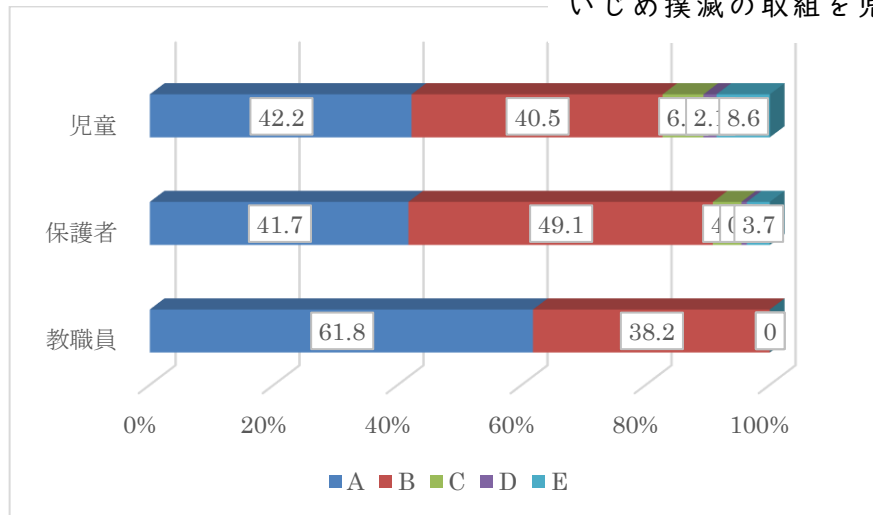
お子さんは、豊かな心が育ってきており、自分を大切にするとともに、他者に対して思いやりの気持ちをもって接しようとしている。



道徳の時間では、学年担当の教員による交換授業を図り、個々の道徳性の醸成に努めた。昨年度よりも、児童・保護者・教職員の「当てはまる」に回答したポイント数が同じような割合になったことは、児童が思いやりの気持ちをもとうと意識しており、それが態度として表れているのだと考える。今後も、豊かな心の育成を充実させていく。

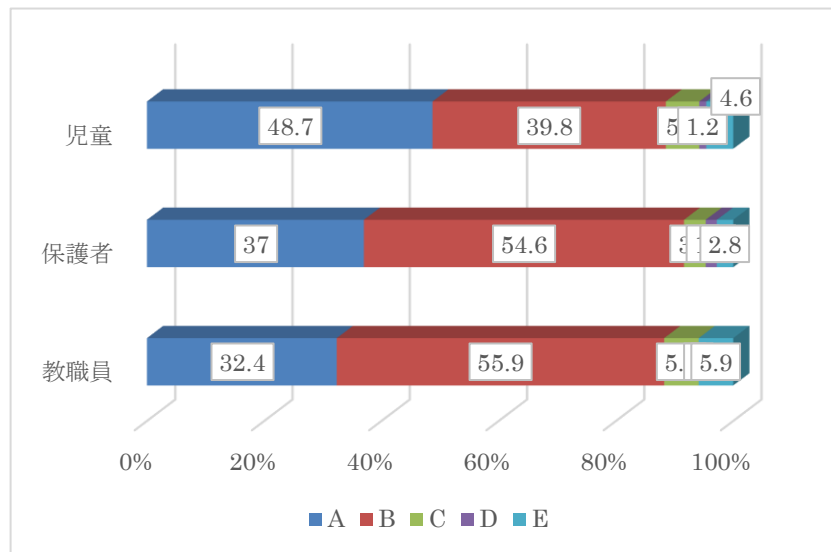
2 友達関係やいじめ対策

お子さんは、友達と仲良く遊んだり学習に取り組んだりしている。いじめ撲滅の取組を児童と教職員が一緒になり取り組んでいる。



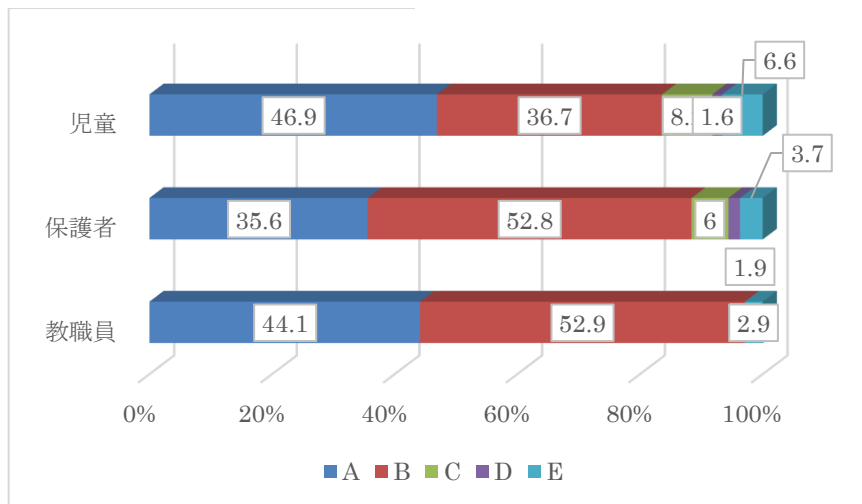
各学年には、専科教員が副担任として配置されている。学年・教科担任制により、複数の教員が児童の育成にあたった。その体制によって、児童が担任以外の教員にも相談するとともに、教員同士が児童について頻繁に情報交換を行い個々の児童に丁寧な対応をしてきた。保護者より児童の回答が下回っているのて、児童に「些細なことでも相談してよい」という環境作りを今後も取り組んでいく。

3 確かな学力の育成 学年・教科担任制を通して、お子さんは、学年相応の基礎・基本の学力を概ね身に付けている。



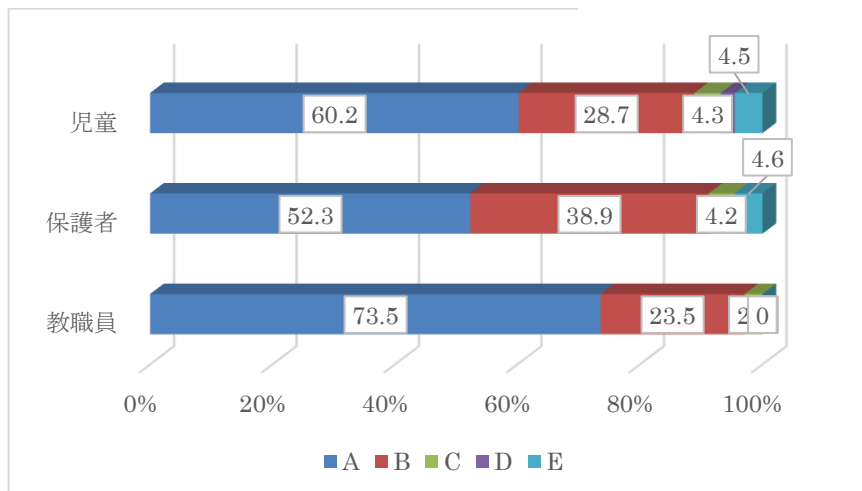
学年・教科担任制を通して、授業改善に取り組むことで、児童は学年相応の基礎・基本の学力を身に付けられるようになったと捉えている。また教科によって学び方に違いがあることも理解しており、自分に合った方法を見つけ、主体的に課題に取り組む児童も増えてきた。これからも、教員が担当教科の専門性を高め、児童の学力向上に努めていく。

4 学習意欲の向上 学年・教科担任制を通して、お子さんは、学習に対して意欲的に取り組んでいる。



「学年・教科担任制」がスタートして2年がたった。昨年度と比べると、意欲的に取り組む児童が2ポイント上回ったことから、様々な教員から指導を受けることは抵抗感が少なくなったと考える。一方、児童・保護者ともに「わからない」という回答が増えた。このことから、来年度も引き続き、学校公開で「学年・教科担任制」の授業を設定する。そこで児童の頑張りを参観してもらい、児童一人一人の自己肯定感に繋げていきたい。

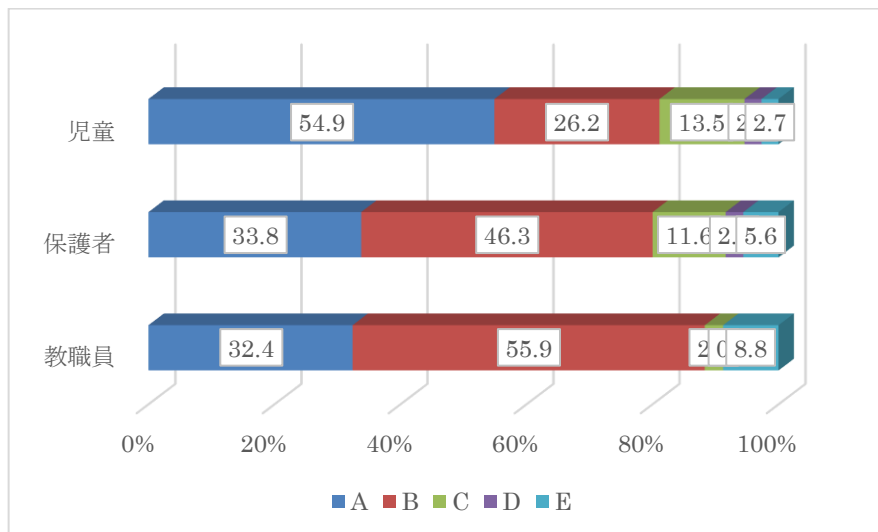
5 ICT を活用した教育活動 お子さんは、楽しくタブレット端末等を活用した学習に取り組んでいる。



令和4年度までの研究推進校としての取組や「学年・教科担任制」での専門的な指導により、タブレット端末等を活用した学習が定着してきており、児童の肯定的な評価が昨年よりも向上している。また、教員間でのタブレット端末活用 OJT を通して、有効活用できる場面や教材を共有することができたことも、児童や教職員の肯定的な評価に反映されているだろう。今後は、三小タブレット端末活用ルール の周知と徹底を図り、安心・安全な運用を目指す。

6 体力向上

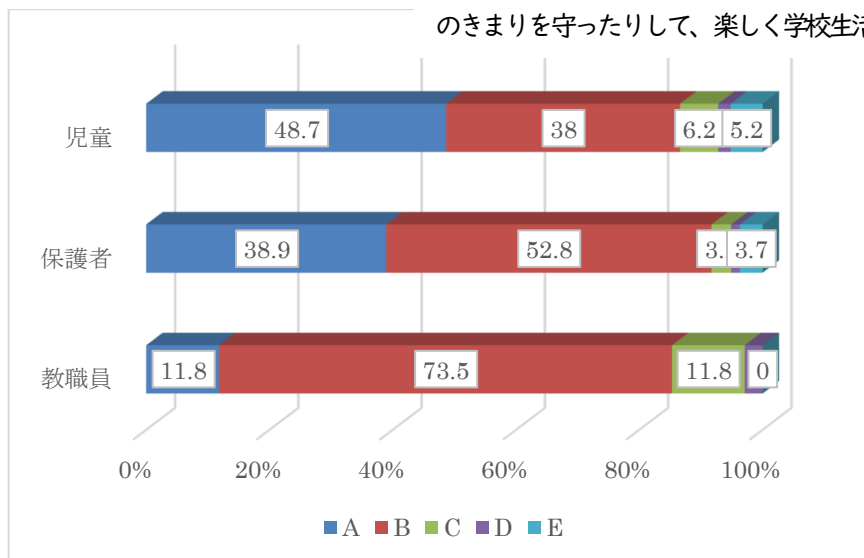
お子さんは、学校の取組の中で、学年相応の体力を身に付けられてきている。



学校では「いつでも、どこでも、誰とでも」「楽しく、安全に、効果的に」児童が運動に取り組んでいる。低学年は遊び、中学年は運動、高学年はスポーツへと学びの系統性も意識している。体力は「できる」ことももちろん素晴らしい力だが、課題に取り組む姿勢や思考力、ルールの理解や仲間との関わりこそ大切であると考えている。体力＝「できる」だけでなく、自他がよりよくなるための力ととらえ、これからも児童の力を高めたいと考えている。

7 生活指導の充実

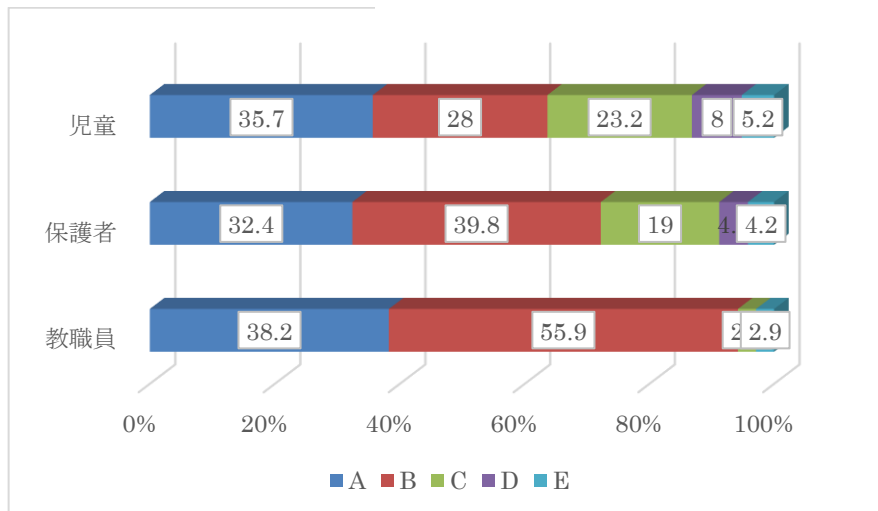
お子さんは、「おはよう、ありがとう、ごめんなさい、さようなら」等のあいさつを言ったり、三小のきまりを守ったりして、楽しく学校生活を過ごしている。



児童、保護者よりも教職員の「あてはまる」が低くなっている。学校全体の生活指導の在り方について教職員全員で見直す必要がある。あいさつに関しては登校時や廊下で様々な教職員が声をかけることで、児童が学校生活を安心して過ごせるように努めている。地域の方々も交通安全週間等で登校中の児童にあいさつを働きかけてくれている。今後も三小ガイドや三小のきまりを活用し、規範意識の醸成が図れるように教職員が連携して指導していく。

8 読書活動の推進

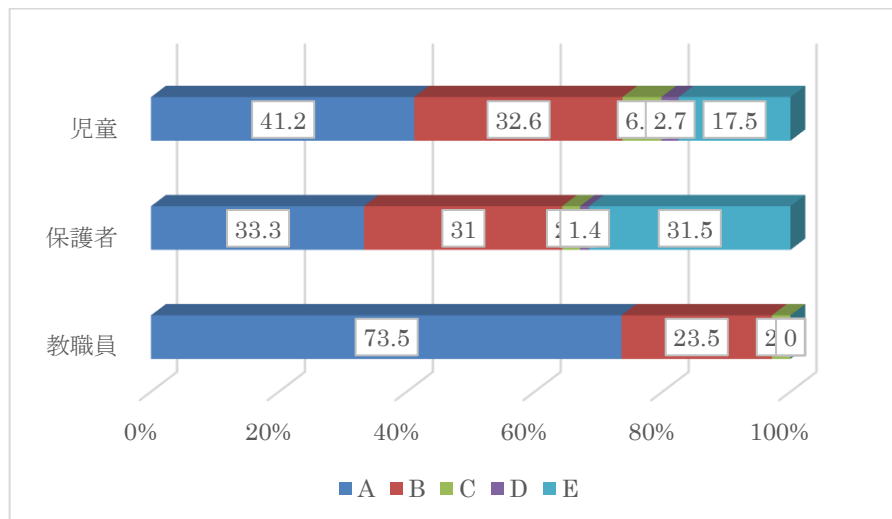
お子さんは、読書に親しんでいる。



毎年行っている読書旬間に加え、図書委員会の児童たちと読書推進のイベントを毎学期行っている。読書ルーレットの企画や本の福袋、異学年の友達に読書郵便を出したり読書マラソンのカードを作成したりしながら、本に親しめる活動の工夫を取り入れている。特にブックメニューは、大人気で児童がとても楽しみにしている。今後も児童が本に親しめるような活動を多く取り入れ、読書の素晴らしさを伝えていきたいと考えている。

9 特別支援教育の充実

学校は、特別な支援を必要とする児童に対して、丁寧な対応に努めようとしている。

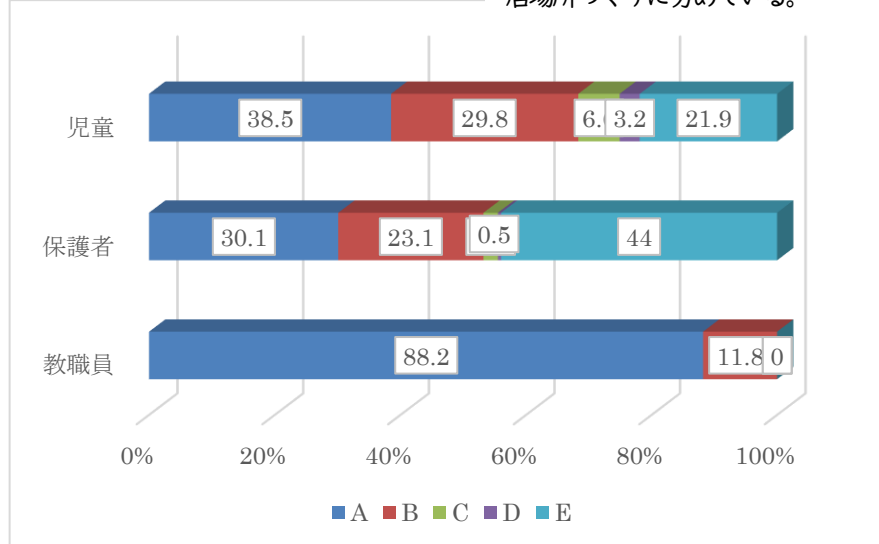


教職員の「当てはまる」が昨年度の27.3%から大幅に上昇した。しかし、児童は昨年度45.9%から下降し、保護者の「わからない」も20.1%から上昇している。教員の取組が児童や保護者に実感として届いていない現状がある。

児童や保護者の願いに寄り添い、専門家の助言をいただきながら、丁寧に対応する体制を構築していく。

10 不登校支援の取組

学校は、不登校児童との関わりを丁寧に行うとともに、支援機関と連携しながら児童の居場所づくりに努めている。

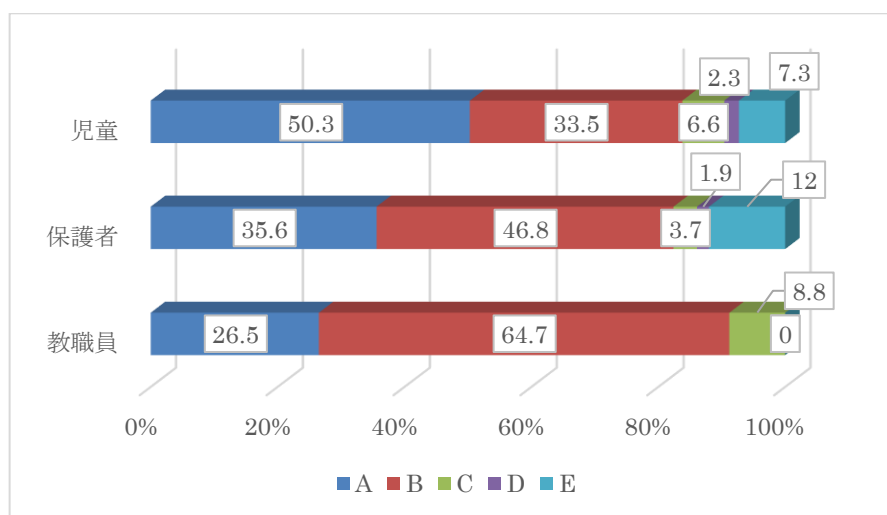


教職員は不登校支援の取組に積極的に関わっている。その一方で、児童や保護者は、不登校等の状況に関わっていないと支援の実態が見えないということが分かった。

本校では、ケヤッキールームなどの教室を立ち上げている。不登校支援に関する情報を適宜提供し、見える化を図っていく。

11 環境整備の取組

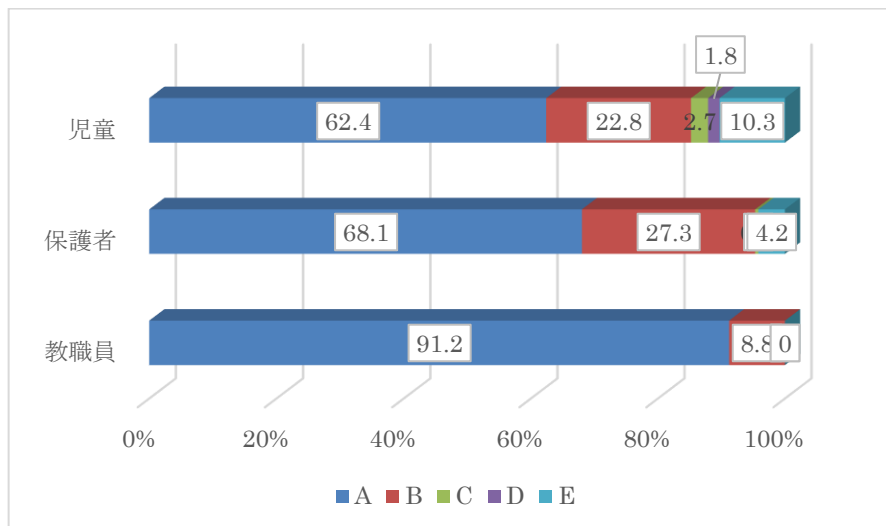
学校は、教室環境等の整備に努め、児童が安全に学びやすくなるように取り組んでいる。



毎月の安全点検や経営支援部(管理職・教員・事務職員・技能主事等)による定期的な話し合いにより、児童・教職員が快適な学校生活を送れるように努めている。今ある資源を大切にしながら、より快適な学校生活を送れるよう、整理・整頓を心掛けるとともに、安全で安心な学校環境を整えていく。また、建物の老朽化等により、安全面で危惧される点もあったため、教育委員会と連携しながら今後も対応していく。

1.2 食育の推進

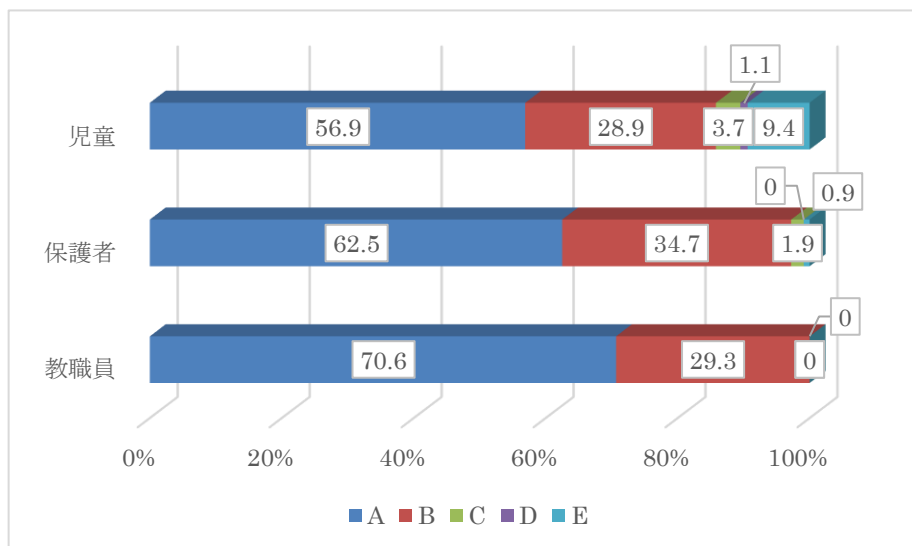
学校は、食育の指導や食物アレルギー事故防止に対する取組を行っている。



食物アレルギー事故防止については、年3回の教職員による研修をしている。毎日、管理職・栄養士・給食調理員・担任と連携確認しながら、安全に給食を提供している。マナーや食材について、給食時に放送しているが、児童の十分な認識に至らない状況が見られる。また、保護者の方へ学校の活動を伝える機会が少なかった。来年度は、広報活動に力をいれていく。

1.3 家庭・地域との連携と情報発信

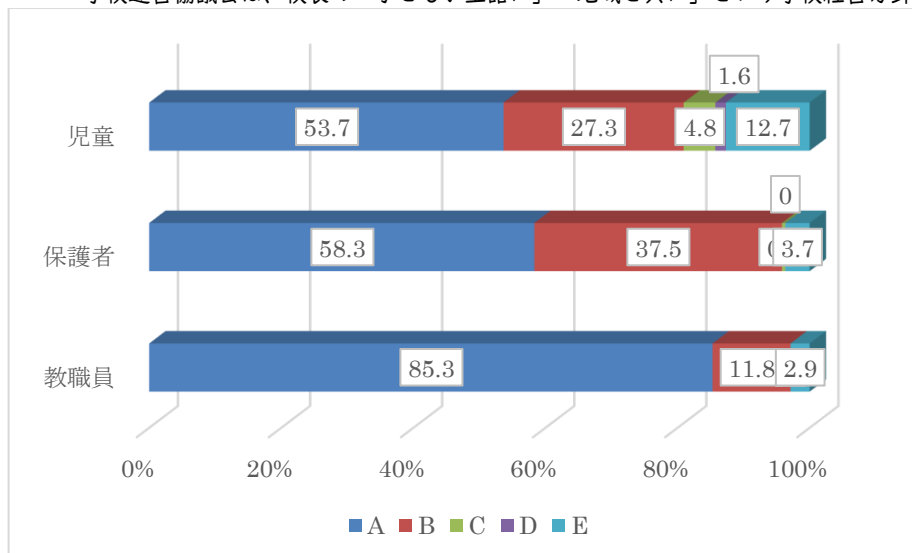
学校は、家庭や地域と連携するために、適切に情報発信を行っている。



昨年度のアンケートでは『学校だよりを以前のように紙で印刷してほしい』というお声をいただいたことを考慮し、今年度より、学校だよりはメール配信と印刷配布の両方で周知するようにした。ホームページの更新は掲載する記事の年間計画を作成し、定期的に発信できるようにしたため、主だった学校の様子をつたえることができた。今後も継続して情報発信をしていく。

1.4 学校運営協議会(コミュニティ・スクール)の推進

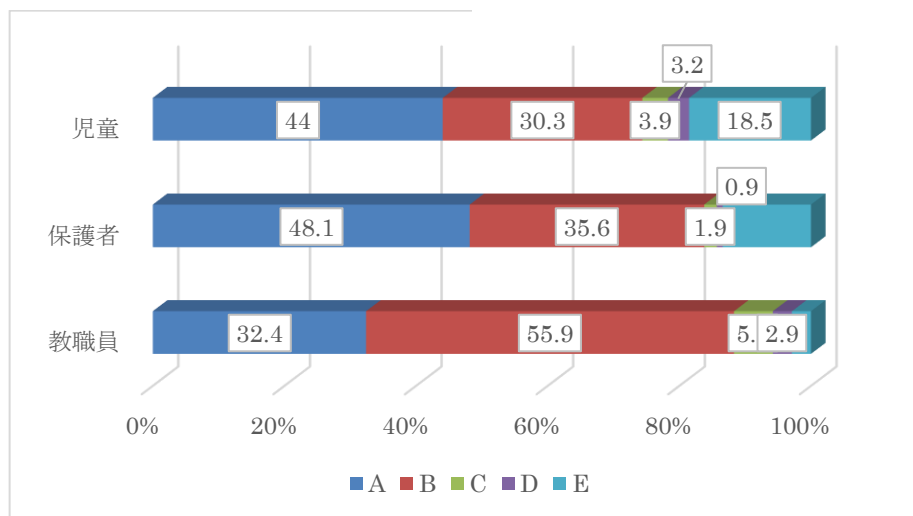
学校運営協議会は、校長の「子どもが主語に」「地域と共に」という学校経営方針を受け、子どもたちのために教育活動に参画している。



学校運営協議会では「子ども第一主義」「地域との協働」という視点で様々な内容について話し合いをしている。今年度は広報活動の一環として学校だよりに活動の様子をお知らせするコーナーを設けた。さらに「ケヤッキーとのだんらん」の参加対象を保護者や地域の方にも広げた。今後、より一層の連携を図り「地域と共にある学校」を目指す。

I 5 働き方改革の推進

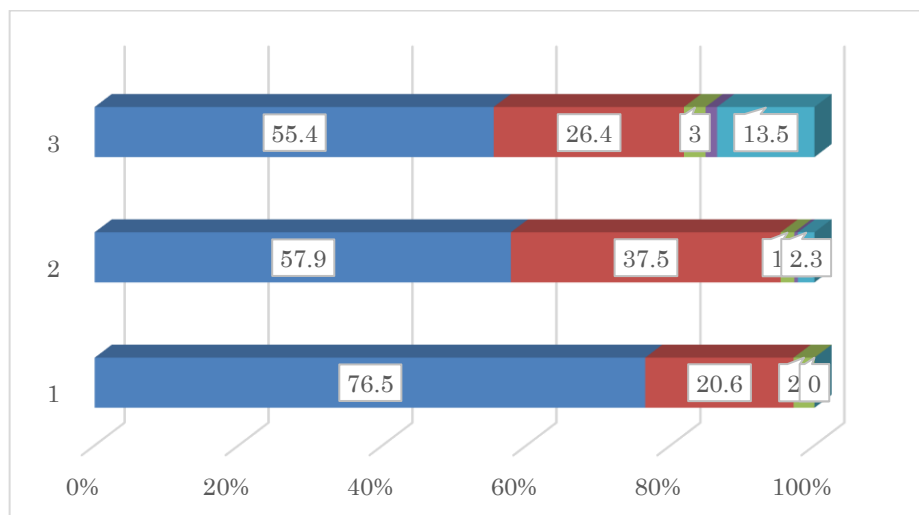
学校は、「教職員のがんばり」という学校経営方針を受け、学年・教科担任制を導入することで、教員の働き方改革を進めようとしている。



職員会議等の精選により教材研究や児童の様子の情報交換等の時間の捻出を図った。また、地域学校協働本部のコーディネーターとの連携によって学習支援員の配置を進め、児童の個別支援の充実を図った。学年・教科担任制の導入により、学年業務や教材研究の効率化が図られ、在校時間の短縮に結びつけられた。今後も、私たち教員が時間と心に余裕をもって、目の前の児童と更に向き合っていく時間を捻出していきたい。

I 6 学校行事や地域行事の充実

学校は、学校行事の充実を図ったり、地域行事に協力したりすることで、子どもの学びや活動を充実することに努めている。



運動会で児童の意見を取り入れて全校競技や応援団が5年ぶりに行われた。学習発表会でも、スローガンを児童からのアンケートで決めたり、開閉会式を代表委員会の児童が進行したりすることで、児童による主体的な活動で進めることができた。

地域行事は、「三笑祭」や「ケヤッキーとの水遊び」などの地域行事に教職員も積極的に参加し、児童や保護者、地域の方々との交流を深めた。今後も学校行事や地域行事を通して、児童の活動を充実させていきたいと考えている。

自由記述欄にも、様々なご意見・ご感想をいただきました。個別に回答や対応が必要な方には連絡を取らせていただきました。ご多用の中、ご協力いただき誠にありがとうございました。